

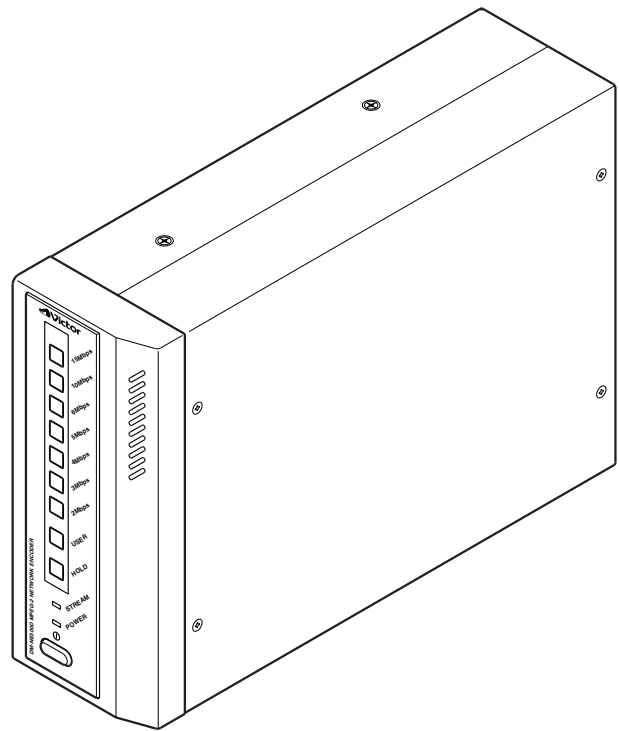


# Victor

## MPEG-2ネットワークエンコーダー

型名 **DM-NE300D**

取扱説明書



お買い上げありがとうございます。

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。

そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製品番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機の側面に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかをお確かめください。

私たちは環境・資源を大切にしています。

この取扱説明書は再生紙（古紙100%）を使用しています。

このたびは  
ビクターMPEG-2ネットワークエンコーダー  
DM-NE300Dを  
お買い上げいただき  
ありがとうございます。

## 主な特長

- 本機は基本動作において、運用中にPCによる制御を必要としません。
- 入力された映像はMPEG-2、音声はMPEG-1 Layer IIで圧縮され、ネットワーク(100BASE-TX)上に送出されます。
- ネットワーク帯域に応じて、最適なビットレート、画質を選択することが可能です。  
あらかじめ設定されたビットレートは、フロントパネルから変更可能です。
- フレームスイッチャー等の外部機器制御用に、RS232C/RS422のシリアル制御パススルー端子を装備しています。
- 標準のネットワークプロトコルを採用しています。  
ストリーム送出はRTP、ストリーム制御はRTSPに準拠しています。また、マルチキャスト/ユニキャストに対応しています。シリアル制御データはUDPで送受信します。
- 大きさが2UハーフラックサイズのためEIAラックにマウントすることが可能です。  
(別売りマウントブラケットを使用します。)
- MPEGの特性上、入力信号に対し、デコーダで再生される映像、音声については遅延が生じます。  
本機では画質を優先する通常モードと、遅延時間を短くする低遅延モードを備えています。
- エラー訂正機能(FEC)により、最大127パケットのバーストロスを復元できます。(DM-ND350との組み合わせで利用可能)
- 停電復帰機能を持ち、停電後の通電時に自動再開させることができます。(ユニキャストのみ)
- IEEE1394からDV入力が可能です。DVからMPEG-2へデジタルのまま変換することが可能です。

## 目次

1. 安全上のご注意 .....	3
2. 本機を使用する場合の注意点 .....	7
3. 付属品・添付物の確認 .....	7
4. 各部の名称とはたらき .....	8
5. 操作のしかた .....	10
6. フロントパネルによる設定のしかた .....	10
7. 主な仕様 .....	11
8. 工場出荷設定値 .....	12
9. 保証とアフターサービスについて .....	13
10. 省エネルギーについて .....	13
11. 商品の廃棄について .....	13
12. その他の情報 .....	14
13. より詳しい設定のしかた .....	15
13.1 パソコンのブラウザによる設定 .....	15
13.2 パソコンのターミナルソフトによる設定 .....	28
13.3 パソコンのテルネットによる設定 .....	35

# 1. 安全上のご注意

## 絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています



**注意**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています

### 警告図記号の説明例



△記号は、注意(警報を含む)を促す内容があることをお知らせするものです。  
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は指を挟まれないよう注意)が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為であることをお知らせするものです。  
図の中に近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。  
図の中に具体的な指示内容が描かれています。

## 警告

- 万一、煙が出ている、変なおいや音がするときは、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切る。  
異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。  
お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



- 表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。  
表示された電源電圧以外では火災・感電の原因となります。この機器を使用できるのは日本国内のみです。



- 船舶などの直流(DC)電源に接続しない。  
火災の原因となります。



- この機器に水を入れたり、ぬらさない。  
火災・感電の原因となります。雨天・降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



- この機器の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かない。  
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



## 警告

■ 必ずアース接続を行ってください。



■ 本機は電源コンセントの近くに設置してください。  
■ 電源を完全に遮断する場合は、電源プラグをコンセントから抜くか、又は本機のACインレット (AC IN) から電源コードを抜いてください。



■ この機器の開口部(通風孔)から内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしない。  
火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



■ この機器を設置する場合は、壁から10 cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。ラックなどに入れるときは、各機器の取扱説明書をよく読み、説明にしたがってすきまをあける。  
内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。



■ 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしなさい。  
コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに重い物をのせてしまうことがあります。



■ 電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。  
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



■ 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。  
コードが破損して、火災・感電の原因となります。



■ この機器を分解・改造しない。  
火災・感電の原因となります。



■ この機器のカバーは外さない。  
感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

■ 風呂、シャワー室では使用しない。  
火災・感電の原因となります。



■ 雷が鳴り出したら、機器に接続されている接続線(アンテナ線、電話線、その他接続線)や電源プラグには触れない。  
感電の原因となります。



■ この機器に使用しているボタン電池を取り外した場合は、小さなお子様があやまって飲むことがないように、手の届かないところに置く。  
万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



## 注意

■ 本機のキャビネットは柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジンなどでふかないでください。塗装や印刷を傷めることがあります。汚れがひどいときは、中性洗剤を水でうすめてふき、後でからぶきしてください。

■ 湿気やほこりの多い場所に置かない。  
火災・感電の原因となることがあります。



■ 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かない。  
火災・感電の原因となることがあります。

■ この機器の通風孔をふさがない。  
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。つぎのような使い方はしない。  
・ あお向けや逆さまにする。  
・ この機器を押し入れや、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。  
・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置く。



■ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。  
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ この機器に乗らない。  
倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。  
特に、小さなお子様のいる場所ではご注意ください。



■ この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きいものを置かない。  
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 梱包箱や梱包袋などは、お子様などが遊びに使わないように注意する。  
遊びに使ったりするとけがや窒息する場合があります。



■ 電源コードを熱器具に近づけない。  
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。  
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。  
必ずプラグを持って抜いてください。



■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。  
感電の原因となることがあります。



## 注意

■ 移動させる場合は、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く。  
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。  
移動はアンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしたことを確認のうえ、行ってください。



■ お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切ってから行う。  
感電の原因となることがあります。

■ 長時間この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。  
火災の原因となることがあります。

■ 2～3年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。  
この機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。  
なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。



■ 他の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明書に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。  
指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



■ 指定以外の電池(バッテリーや乾電池)は使用しない。乾電池は充電しない。  
また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。  
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



■ 電池を入れるときは、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、機器の表示どおりに入れる。  
間違えると電池の破裂、液もれによって、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



■ 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてない。  
電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。





## 2. 本機を使用する場合の注意点

- 本機の特性上入力信号に対し、デコーダーで再生される映像、音声については遅延が生じます。
- ネットワークの状況により、再生映像や音声が生じたり、ノイズが入ったりする場合がありますが故障ではありません。
- 本機に入力する映像信号は正しい規格のものを入力してください。接続する機器によっては正しく動作しない場合があります。  
VTRの中には再生、ポーズ、停止、早送り、巻き戻しを行うと出力する映像信号が規格から外れるものがあります。そのような信号を入力した場合、本機は一時的にフリーズ画面や黒画面を出力します。
- 「RS232C/RS422」 切換スイッチ (9ページ ⑳) は本機の電源を切った状態で行ってください。動作中に切り換えると、リセットスイッチによる復帰が必要となります。
- 「VIDEO SELECT」 スイッチ (9ページ ㉑) の設定は本機の電源を切った状態で行ってください。動作中に切り換えると、映像、音声にノイズが入る場合があります。
- ストリームを送信中にビットレートその他の設定を変更しないでください。特にエラー訂正機能を使用中に設定変更が行われると、FECストリームが不連続になるためデコーダは正常に再生できなくなります。
- ブラウザ、テルネット、ターミナルソフトで設定を変更している最中に電源を切らないでください。設定変更を行っている間は、不揮発メモリへの書き込みが行われますので、途中で電源を切るとデータの整合性がとれなくなり、立ち上がらなくなる場合があります。
- **ウィンドウズパソコンのNetBIOS**  
ウィンドウズパソコンのNetBIOSを有効にしていると定期的にブロードキャストパケットを送り、ネットワークを占有します。その結果本機からのストリーム送信やデコーダでのストリーム受信ができなくなることがあります。ウィンドウズパソコンを同一LANに接続する場合には、NetBIOSを無効に設定してください。NetBIOSの設定変更は、ウィンドウズ画面に表示されている「ネットワークコンピュータ」アイコンのプロパティを開いて行います。(なお、NetBIOSを無効にすると、ネットワークコンピュータをクリックしても近隣のパソコンは見えません。)
- **ハブの選択**  
シェアードハブではなくスイッチングハブをご使用ください。シェアードハブを使うと宛先ではない機器に対しても全てのパケットが送られるため、本機やデコーダは不要なパケットを捨てる処理が必要になり、動作に制約が生じます。
- **他のマルチキャストと共存させる上での制約**  
マルチキャストを行っている際には、スイッチングハブを使用しているシステムであっても、マルチキャストのパケットがLAN内の全ての機器に到達します。そのため他のネットワークエンコーダがマルチキャスト送信を行っている状況では、本機に大量のパケットが送られてくることになり、それらの不要なパケットを処理することから動作に制約が生じます。  
IGMPスヌーピングの無いLAN環境で複数のマルチキャストストリームを流す場合には、合計のビットレートが40Mbps以下になるように設定してください。例えば3本のマルチキャストであれば1本あたり13Mbps以下、4本のマルチキャストであれば1本あたり10Mbps以下でご使用ください。  
合計のビットレートが40Mbps以上のマルチキャストシステムを構築したい場合には、IGMPに準拠したネットワークをご使用ください。
- **ブロードキャストパケット**  
大量のブロードキャストパケットが到達するネットワークでは、本機は正常に動作できません。瞬間的なブロードキャストが40Mbpsを越えないネットワークでご使用ください。
- **DV入力端子について**  
本機のDV入力はカメラなどのDVのAV入力としてのみ使用可能です。出力としては機能しません。

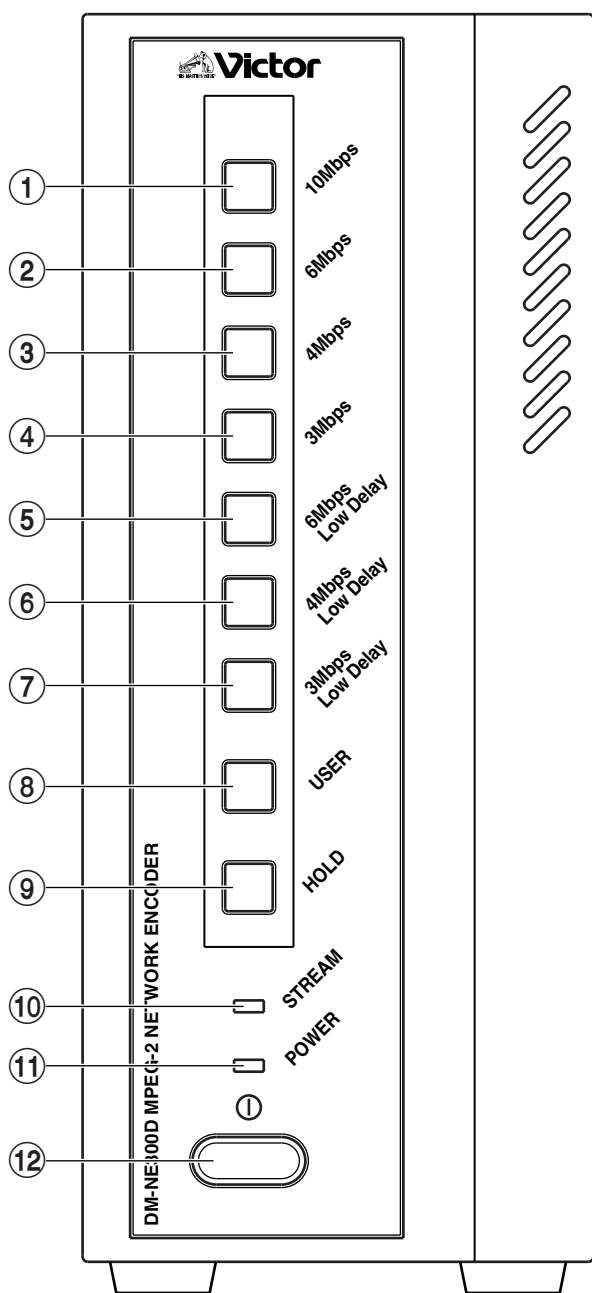
## 3. 付属品・添付物の確認

ネットワークエンコーダーの付属品・添付物は次のとおりです。過不足がないか確認してください。不足している物があれば、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

① 取扱説明書(本書) .....	× 1	④ 電源コード(2.5m) .....	× 1
② ビクターサービス窓口案内 .....	× 1	⑤ 電源コード用3P-2Pプラグ .....	× 1
③ 保証書 .....	× 1	⑥ スイッチプレート .....	× 2

# 4. 各部の名称とはたらき

## ■フロントパネル



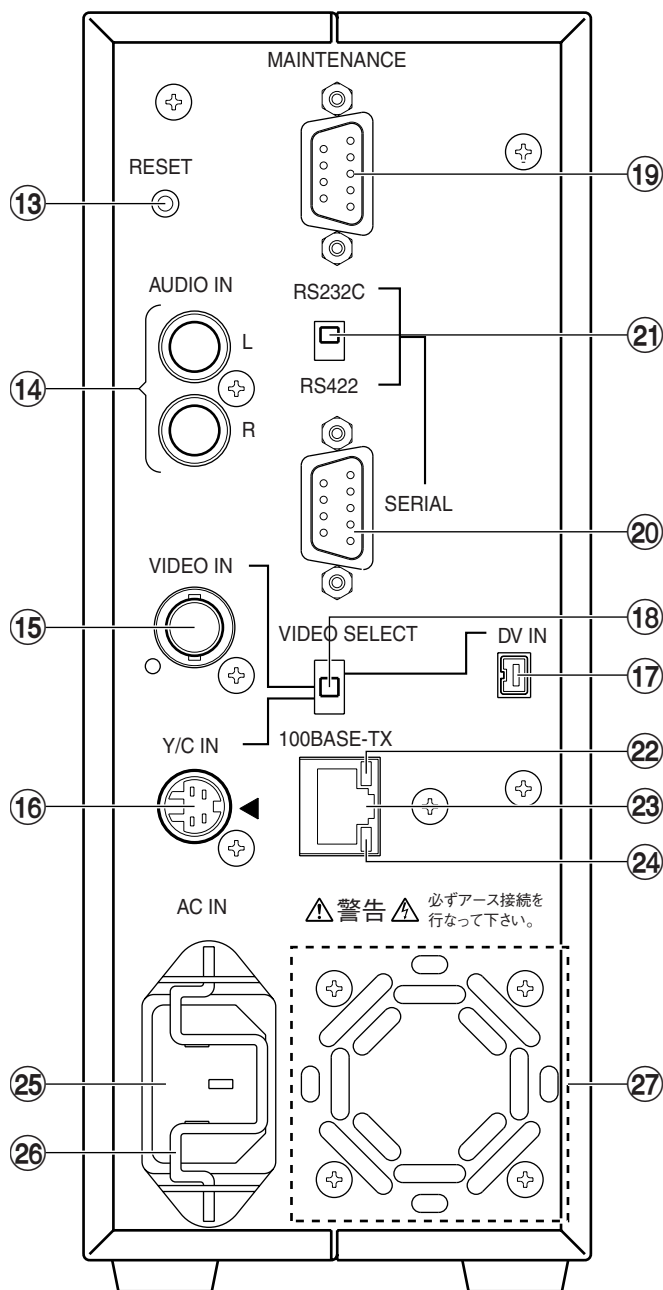
- ① **「10 Mbps」 設定スイッチ**  
出力TSレートを10 Mbpsに設定します。  
選択時にボタンが点灯します。  
エラー訂正機能(FEC)をオンにしている場合にはビットレートの上限が6.95Mbpsとなるため、選択できなくなります。その場合には本スイッチが点滅した後に元のスイッチが点灯します。
- ② **「6 Mbps」 設定スイッチ**  
出力TSレートを6 Mbpsに設定します。  
選択時にボタンが点灯します。
- ③ **「4 Mbps」 設定スイッチ**  
出力TSレートを4 Mbpsに設定します。  
選択時にボタンが点灯します。

- ④ **「3 Mbps」 設定スイッチ**  
出力TSレートを3 Mbpsに設定します。  
選択時にボタンが点灯します。
- ⑤ **「6 Mbps Low Delay」 設定スイッチ**  
出力TSレートを6 Mbps Low Delay(低遅延モード)に設定します。  
選択時にボタンが点灯します。
- ⑥ **「4 Mbps Low Delay」 設定スイッチ**  
出力TSレートを4 Mbps Low Delay(低遅延モード)に設定します。  
選択時にボタンが点灯します。
- ⑦ **「3 Mbps Low Delay」 設定スイッチ**  
出力TSレートを3 Mbps Low Delay(低遅延モード)に設定します。  
選択時にボタンが点灯します。
- ⑧ **「USER」 設定スイッチ**  
USER設定値の出力TSレートに設定します。出荷時設定は1.5 Mbps Low Delayです。  
選択時にボタンが点灯します。  
エラー訂正機能(FEC)をオンにしている場合にはビットレートの上限が6.95Mbpsとなるため、USER設定値が7Mbps以上だった場合には選択できなくなります。その場合には本スイッチが点滅した後に元のスイッチが点灯します。
- ⑨ **「HOLD」 スイッチ**  
上記設定スイッチの操作のロックを制御します。  
ボタン点灯時にはロックがかかっているため、このボタンを押してロックを解除して設定ボタンを操作してください。  
ロック解除時にはボタンは消灯します。  
上記設定スイッチが約10秒間操作されない場合は自動的にロックがかかります。

- ⑩ **「STREAM」 LED**  
本機が100BASE-TX上にストリームを送出している場合に点灯します。
- ⑪ **「POWER」 LED**  
電源「入」時に緑色点灯します。
- ⑫ **電源スイッチ**  
電源スイッチです。カチッと音がするまで押し込んでください。



## ■リアパネル



- 本機は電源コンセントの近くに設置してください。
- 電源を完全に遮断する場合は、電源プラグをコンセントから抜くか、又は本機のACインレット(AC IN)から電源コードを抜いてください。
- ※ 17, 20 設定後は添付のスイッチプレートを貼って固定してください。  
お買い上げ販売店におまかせください。

- 13 **「RESET」スイッチ**  
先のとがったものでボタンを押し込んでください。本機はリセットされます。
- 14 **「AUDIO IN」入力端子**  
アナログオーディオの入力端子です。  
DV IN端子を使用する場合は使用できません。

- 15 **「VIDEO IN」端子**  
映像(Composite)入力端子です。この端子を入力として使用する場合は「18 VIDEO SELECTスイッチ」を真中に設定して使用してください。
- 16 **「Y/C IN」端子**  
映像(Y/C)入力端子です。この端子を入力として使用する場合は「18 VIDEO SELECTスイッチ」を下側に設定して使用してください。
- 17 **「DV IN」端子**  
DV入力端子です。この端子を入力として使用する場合は「18 VIDEO SELECTスイッチ」を上側に設定して使用してください。
- 18 **「VIDEO SELECT」スイッチ**  
映像入力をComposite、Y/Cのどれかを選択します。使用する信号にあわせて「VIDEO IN」「Y/C IN」を設定してください。  
このスイッチを切り換える際には電源を「切」にした状態で行ってください。
- 19 **「MAINTENANCE」端子**  
この端子はサービス用の端子です。通常は使用しません。
- 20 **「SERIAL」**  
外部機器制御用のシリアルパススルー入出力です。
- 21 **「RS232C/RS422」切替スイッチ**  
このスイッチは「19 SERIAL」の出力信号フォーマットをRS232CかRS422に設定します。  
このスイッチを切り換える際には電源を「切」にした状態で行ってください。
- 22 **「LINK」LED**  
100BASE-TXが通信可能状態になると点灯します。
- 23 **「100BASE-TX」端子**  
100BASE-TXの端子です。MPEG-2ストリームの出力端子です。
- 24 **「RXD」LED**  
本機が100BASE-TXを通じてデータを受信しているときに点灯します。
- 25 **AC IN**  
AC100Vの入力です。付属の専用電源コードを必ずご使用ください。  
必ずアース接続を行ってください。アース接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。又、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切離してから行ってください。
- 26 **抜け防止金具**  
添付の電源ケーブルを挿した後、この金具でケーブルを固定してください。
- 27 **排気口**

## 5. 操作のしかた

---

本機は設定値を記憶していますので電源を入れるだけで、電源を切る前と同じ動作が可能です。電源を入れるたびに設定を行う必要はありません。

- ①フロントの電源スイッチを「入」にします。  
「POWER」LEDと、「USER」ボタンが緑色に点灯します。
- ②動作可能になるまで約30秒お待ち下さい。  
動作可能になると「HOLD」ボタンと、電源を切る前に使用していたボタンとが緑色に点灯します。  
※ PCによりビットレート等を設定した場合には、「USER」ボタンが点灯します。
- ③動作が可能になります。  
フロントパネルの設定、PCによる設定、デコーダからの制御が可能になります。

## 6. フロントパネルによる設定のしかた

---

DM-NE300Dを設定する手段としてはフロントパネルによる設定のしかた以外に、

1. パソコンのブラウザによる設定(15ページ)
2. パソコンのターミナルソフトによる設定(28ページ)
3. パソコンのテルネットによる設定(35ページ)

があります。

15ページ以降に上記のより詳しい設定のしかたについて記載してあります。

### フロントパネルのスイッチによる設定

フロントパネルからは、ビットレートを選択できます。各ボタンにはビットレートとディレイモードがプリセットされています。

- ① HOLDスイッチを押してロックを解除します。(HOLDボタンは消灯します。)
- ② 設定スイッチを選びます。
- ③ HOLDスイッチを押してロックさせます。(何もしない場合約10秒後に自動的にロックします。)

なおエラー訂正機能(FEC)をオンにしている場合にはビットレートの上限が6.95Mbpsとなるため、それを超える設定は選択できなくなります。

## 7. 主な仕様

圧縮フォーマット	映像	ISO/IEC13818-2 圧縮規格 MPEG-2 対応フォーマット480i フレームサイズ 720×480(ノーマル: 4.46~15Mbps、低遅延: 6.94~15Mbps) 544×480(ノーマル: 2.48~4.30Mbps、低遅延: 3.91~6.84Mbps) 352×480(ノーマル: 1.05~2.34Mbps、低遅延: 1.05~3.79Mbps) フレームレート Interlace:29.97Hz ビットレート CBR (87通りから選択可能)
	音声	ISO/IEC11172-3 圧縮規格 MPEG-1 Layer II (ISO/IEC11172-3) ビットレート Stereo:192kbps サンプリングレート 48kHz
映像入力	Composite Video BNC/75Ω×1 Y/C信号 S端子×1	
音声入力	アナログオーディオ 2Vrms RCAピン×2(LR)	
DV入力	DV入力 DV端子×1	
ネットワークインターフェース	100BASE-TX RJ-45×1	
外部制御	RS232C/RS422 D-sub9Pin(オス)×1	
メンテナンス	RS232C D-Sub9Pin(メス)×1	
ストリーム制御	RTSP/TCP/IP, API	
ストリーム出力	100BASE-TX RTP/UDP/IP ユニ/マルチキャスト 出力レート 1.05Mbps~15Mbps (FEC ON時は6.95Mbps) 出力フォーマット MPEG-2 Transport Stream (ISO/IEC13818-1) TSパケットサイズ 188バイト	
電源	AC 100V 50Hz/60Hz	
消費電流	0.5A	
動作環境	0℃~40℃(結露なきこと)	
外形寸法	86mm X 214mm X 301mm(端子,突起含まず)	
質量	2.8kg	
安全規格	JEIDA-37	
EMC規格	VCCI クラスA 情報処理装置	

■ 本機の仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

## 8. 工場出荷設定値

### スイッチ設定

設定項目	出荷設定	設定値補足説明
フロント設定スイッチ	3Mbps	ノーマルモード 3Mbps
電源スイッチ	OFF	
SERIAL	RS232C	
VIDEO SELECT	VIDEO IN	

### USERボタン設定値

設定項目	出荷設定	設定値補足説明
TSレート	1.5Mbps	低遅延モード オーディオストリーム有
Low Delay	Low	
Audio	ON	

### ソフトウェア設定値

設定項目	出荷設定	設定値補足説明
IP Address	10.0.0.1	ノーマルモードの選択 オーディオストリーム有 オンデマンドスタート選択 ユニキャストモード選択 全てのデコーダの停止選択
Subnet Mask	255.0.0.0	
Default Gateway Address	設定無し	
Bitrate	2.98Mbps	
Low Delay	Normal	
Audio	ON	
Auto Start	Normal	
Unicast/Multicast Mode	Unicast	
Multicast Stop Mode	Stopped when all decoders stop	
Multicast IP Address	225.0.1.1	
Multicast Port Number	3000	
Serial Port Baudrate	9600bps	
Data Length	8	
Parity	None	
Stop Bit	1	
Flow Control	None	
Destination IP Address	10.0.0.100	
Destination Port Number	1052	

## 9. 保証とアフターサービスについて

### 保証書(別添)

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。  
「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

#### 保証期間

お買い上げの日から1年間

### 修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

### 修理を依頼されるときは

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度、各部の接続、設定状態等についてお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にて修理をご依頼ください。

#### 保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。  
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

#### ご連絡していただきたい内容

商品名	MPEG-2 ネットワークエンコーダー
型名	DM-NE300D
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
便利メモ	お買い上げ店名 Tel( ) -

### 出張修理

#### 保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品には、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

#### 修理料金の仕組み

技術料	故障診断、修理及び部品交換、調整、点検などの作業にかかる費用です。
+	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材費を含む場合もあります。
+	
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ 故障その他による営業上の機会損失等の保証はいたしかねます。

## 10. 省エネルギーについて

節電のため、使用しない時は電源を切ってください。

## 11. 商品の廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適正に処理してください。

## 12. その他の情報

この装置は、情報処理装置電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

### ■ 電波障害について

本機は VCCI (情報処理装置等電波障害自主規制協議会) クラス A 情報装置の基準に適合した製品ですが、テレビやラジオ受信機、無線機などの近くで使用しますと、画面が乱れたり雑音が発生したりすることがあります。このような場合は、以下の処置を試してください。

- ・本装置をラジオ・テレビから離すか、向きを変えてみてください。
- ・室内アンテナをご使用の場合には、アンテナの向きや位置を変えてみてください。
- ・ラジオ・テレビの電源コンセントとは別のコンセントを使ってみてください。
- ・電源コンセントと電源プラグとの間に、市販されているノイズフィルタを入れてみてください。

### ■ EIAラックマウントについて

- ・DM-NE300D 1台の場合：ラックマウント金具WT-Z11J (色：黒) が必要です。
- ・DM-NE300D 2台の場合：ラックマウント金具PA-U22(色：グレー)と連結プレートDM-Z300Jが必要です。

設置については必ずお買い上げ販売店におまかせください。

本機の取扱説明書やマニュアルに記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

1. 本書の内容の一部または全部を無断転載することはお断りします。
2. 本書の内容については、予告なく変更することがあります。
3. 運用に際して生ずる結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
4. このネットワークエンコーダーを使用できるのは、国内のみです。外国では、信号方式、電源電圧が異なりますので、使用できません。
5. 写真や図は説明をわかりやすくするために拡大、省略、合成をしています。実物とは、多少異なりますのでご了承ください。

### ■ 設置説明の詳細をWebにて配布しています。以下のURLからダウンロードしてください。

<http://www.jvc-victor.co.jp/pro/net-enc/dm-ne300/dmne300inst.html>



# 13. より詳しい設定のしかた

設定に使用するパソコンの動作環境についてはお買上げ販売店にご相談してください。

注)：設定値の変更で特にネットワークに関する設定変更については十分に確認を行って下さい。設定を間違えた場合はブラウザおよびテルネットによる接続が出来なくなります。また、システムの動作も正常でなくなります。

## 13.1 パソコンのブラウザによる設定

注)：パソコン側の設定についてはパソコンの取扱説明書をよくお読みください。

使用する OS とブラウザのバージョンによって正しい表示が出来ないことがありますが、動作に支障はありません。

### 13.1.1 パソコンとの接続

#### (1) 接続

DM-NE300D とパソコンをネットワークで接続します。パソコンと DM-NE300D がネットワークで接続されているかどうかは ping コマンドを実行することでチェックできます。例えば DM-NE300D の IP アドレスが 10.0.0.1 であれば、パソコンでコマンドプロンプトを起動し

ping 10.0.0.1

と打ち込みます。正しく接続されている場合には、DM-NE300D からの次のようなレスポンスが数行表示されます。

Reply from 10.0.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64

接続されていない場合には次のようにタイムアウトが表示されます。

Request timed out.

注)：工場出荷時の DM-NE300D の IP アドレスは 10.0.0.1、サブネットマスクは 255.0.0.0 になっています。

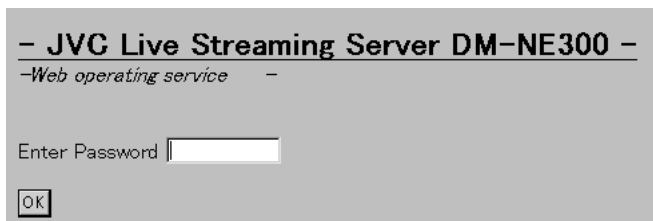
#### (2) ブラウザソフトの起動

パソコンでインターネットエクスプローラ (バージョン 5.5 以上) を起動し、アクセスする場所の入力欄 (URL の入力欄) に DM-NE300D の IP アドレス (URL) を入力します。例えば DM-NE300D の IP アドレスが 10.0.0.1 であれば、http://10.0.0.1 という URL を入力し Enter キーを押します。これにより先頭ページがブラウザに表示されます。(もし表示されない場合は、ブラウザに入力した URL が正しいか確認してください。)

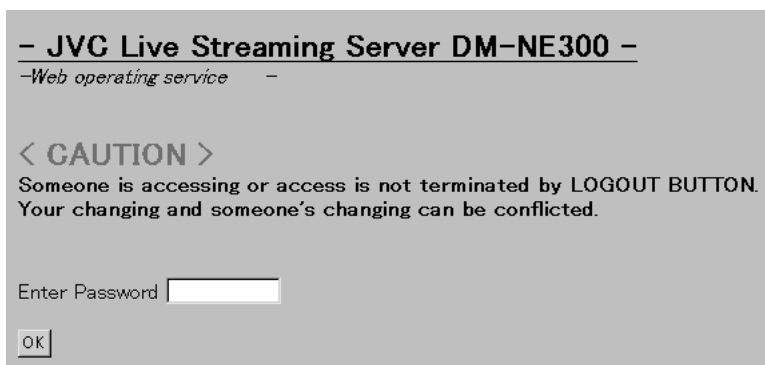
インターネットエクスプローラのツールの下のインターネットオプションの詳細設定で“Internet Explorer の更新について自動的に確認する”を ON にする必要があります。

注)画面中の vx.x の x.x にはソフトウェアのバージョンが入ります。

### 13.1.2 先頭ページ(パスワード入力)



誰かがブラウザで本機にアクセスしている場合、又は Logout Button を使用して終了していない場合、下の先頭ページが表示されます。



パスワードを入力し OK ボタンをクリックします。

注)：工場出荷時のパスワードは password という8文字になっています。

安全のためパスワードを変更することを推奨します。パスワードの変更方法はパスワード変更ページに出てきます。

パスワードが正しければ Basic ページがブラウザに表示されます。

パスワードが正しくない場合には警告画面が表示されるので、ブラウザで前のページへ戻り正しいパスワードを入力してください。

注)：安全のためブラウザによるアクセスにはタイムアウトを設けてあります。最後に設定してから1時間経過すると、タイムアウトによりブラウザから各ページへアクセスできなくなります。その場合は再度先頭ページからパスワードを入力してください。

# 13. より詳しい設定のしかた

## 13.1.3 Basic (基本的な設定)

このページでは現在のパラメータが表示されるとともに、それらのパラメータを変更することができます。変更する場合には、値を選択あるいは入力し左下のEnterボタンをクリックします。なおページの最上部には他のページへのリンクがあります。

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

< Basic >

FEC is Enabled. Bitrate must be under 7 Mbps.

**Stream**

TS  Mbps **Caution**  
DM-ND300 can not decode over 10.0Mbps.

Delay Mode  Normal  Low

Audio Mode  ON  OFF

Start Mode  Normal  Auto Auto start mode starts sending stream after reboot.

AutoRecovery after Power Failure  Disabled  Enabled ( Available in Unicast Mode. )

AutoRecovery Timeout  seconds ( Max: 2147000000 : about 68 years)

Decoder Request during AutoRecovery  Disabled  Enabled

Unicast

Multicast

Multicast Stop Mode  ALL Decoders  Master Decoder  Manual

Multicast Address  .  .  .  224.0.0.0 - 239.255.255.255

Multicast Port  ( Recommended: 1024 - 65535 )

FEC Multicast Port  ( Recommended: 1024 - 65535 ) FEC is Enabled

**Serial Port**

Baudrate  bps

Data Length  7  8

Parity  None  Odd  Even

Stop Bit  1  2

Flow Control  None  Xon/Xoff  Hardware

### 入力が正しい時

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

New parameters are accepted.

### 入力が間違っている時

Basic画面が再び表示されます。

#### ・TS(ビットレート)

MPEG-2のTS(トランスポートストリーム)のビットレートを選択できます。1.06 ~ 14.88Mbpsの範囲で87通りが用意されています。デコーダDM-ND350はすべてのビットレートを再生できますが、DM-ND300が再生できるのは9.92Mbps以下です。またエラー訂正機能(FEC)を使用する場合には、選択可能なビットレートの上限は6.95Mbpsになります。AdvancedページにあるMPEG2 TS Packet Number [26ページ]もご参照ください。

#### ・Delay Mode(遅延モード)

ノーマル/低遅延の2通りから選択できます。ノーマルの場合は画質が優先されたエンコード方式になり、低遅延の場合は遅延時間の短さが優先されたエンコード方式になります。

#### ・Audio Mode(音声モード)

ON/OFFの2通りから選択できます。音声有りの場合のオーディオのビットレートは192kbpsです。音声を無にした場合には映像にビットレートが割り振られ画質が向上します。

・Start Mode(自動開始モード)

Normal / Auto の2通りから選択できます。Auto にした場合には **DM-NE300D** を電源オンした後に自動的に送信を開始します。ただしユニキャストモードの場合に宛先IPアドレスの機器が存在しないと、送信を開始しません。Normalにした場合には、デコーダからのリクエストやストリーム制御のページのボタンにより送信を開始します。

・AutoRecovery after Power Failure(停電復帰モード)

Disabled / Enabledの2通りから選択できます。Enabledにすると停電復帰機能が動作し、送受信中の**DM-NE300D / DM-ND350 / DM-ND300**が停電した場合、通電後に送受信を自動的に再開します。**DM-ND350 / DM-ND300**が再生中だった場合には停電復帰させますが、ポーズ中だった場合には停電復帰させません。なお停電復帰機能はユニキャストモードで利用できます。マルチキャストモードの場合には利用できません。

・AutoRecovery Timeout

**DM-ND350 / DM-ND300**を停電復帰させる場合のタイムアウトを秒単位で設定できます。ストリームを再生中の**DM-ND350 / DM-ND300**が停電すると、**DM-NE300D**はタイムアウトになるまで再生再開コマンドを**DM-ND350 / DM-ND300**へ送信し続けます。タイムアウト以内に**DM-ND350 / DM-ND300**が通電および起動すれば、再生は再開されます。タイムアウト時間が来ても**DM-ND350 / DM-ND300**から応答が無かった場合には、通常の待機状態になります。

・Decoder Request during AutoRecovery

Disabled / Enabledの2通りから選択できます。Enabledにした場合、**DM-NE300D**は停電復帰動作中に他のデコーダからのリクエストを受け付けます。すなわち停電している**DM-ND350 / DM-ND300**へのアクセスを中絶し、リクエストを送ってきたデコーダと新たなセッションを開始します。

・Unicast / Multicast(ユニキャスト / マルチキャスト)

通常はデコーダと1対1で送受信を行います。これをユニキャストと呼びます。マルチキャストは一度に複数のデコーダへ送信を行う方式です。マルチキャストを行う場合にはMulticastをオンにします。

・Multicast Stop Mode(マルチキャスト停止モード)

All Decoders / Master Decoder / Manualから選択できます。All Decodersを選択した場合には、マルチキャストに参加している全てのデコーダが受信を停止した場合にマルチキャスト送信を停止します。Master Decoderを選択した場合には、最初にマルチキャスト受信を開始したデコーダ(マスターデコーダ)が受信を停止したらマルチキャスト送信を停止します。Manualを選択した場合には、マルチキャストに参加している全てのデコーダが停止してもマルチキャスト送信を停止しません。ストリーム制御のページのボタンまたはAPIにより停止します。

・Multicast Address(マルチキャストアドレス)

マルチキャストで使用するIPアドレスを4個の整数で入力します。224.0.0.0から239.255.255.255の中から選択してください。複数のエンコーダをマルチキャストで使用する場合は、それぞれのエンコーダのマルチキャストアドレスを別々のアドレスに設定してください。

・Multicast Port(マルチキャストのポート番号)

ポート番号は0から65535の範囲から選択します。1023以下は各種プロトコルで使用されることがあり、1024以上を推奨します。

・FEC Multicast Port(FEC用マルチキャストのポート番号)

マルチキャストモードでエラー訂正機能(FEC)を使用する場合に、FECストリームの宛先ポート番号を設定します。MPEG-2ストリームのポート番号であるMulticast Portとは異なる番号を設定してください。ポート番号は0から65535の範囲から選択します。1023以下は各種プロトコルで使用されることがあり、1024以上を推奨します。

・Serial Port Baudrate(シリアルポートのボーレート)

下記から選択できます。

110 / 134 / 150 / 200 / 300 / 600 / 1200 / 2400 / 3600 / 4800 / 7200 / 9600 / 19200 / 31250 / 38400

・Data Length(シリアルポートのデータ長)

7/8から選択できます。

・Parity(シリアルポートのパリティ)

none/odd/evenから選択できます。

・Stop Bit(シリアルポートのストップビット)

1 / 2から選択できます。

・Flow Control(シリアルポートのフロー制御)

None / Xon/Xoff / Hardwareから選択できます。

# 13. より詳しい設定のしかた

## 13.1.4 Encoder Control (ストリーム送信のマニュアル操作)

このページではストリームの送信を制御することができます。デコーダDM-ND350/DM-ND300と送受信する場合にはRTSPプロトコルによりDM-ND350/DM-ND300がDM-NE300Dを制御しますが、ここではデコーダからのリクエストに応えるのではなく、手動操作で送信させることができます。例えばPCに送信しPCでファイルキャプチャーする場合などに使用します。

まずユニキャストかマルチキャストかを選択してください。ユニキャストにした場合には送信先は1個所だけになります。マルチキャストを選択した場合には、複数の個所へ送信することができます。

エラー訂正機能(FEC)をオンにしている場合には、FECストリームも送信されます。

- **Destination IP Address (ユニキャストの宛先 IP アドレス)**

ユニキャストで送信する宛先 IP アドレスを4個の10進整数で指定できます。

- **Destination Port Number (ユニキャストの宛先ポート番号)**

宛先ポート番号を指定できます。0から65535の範囲から選択してください。1023以下は各種プロトコルで使用されることがありますので、1024以上を推奨します。

- **FEC Port Number (ユニキャスト)**

エラー訂正機能(FEC)を使用する場合に、FECストリームの宛先ポート番号を設定します。MPEG-2ストリームのポート番号であるDestination Port Numberとは異なる番号を設定してください。0から65535の範囲から選択します。1023以下は各種プロトコルで使用されることがあり、1024以上を推奨します。

- **Multicast Address (マルチキャストの宛先 IP アドレス)**

マルチキャストで送信するマルチキャスト IP アドレスを4個の10進整数で指定できます。

- **Multicast Port Number (マルチキャストの宛先ポート番号)**

宛先ポート番号を指定できます。0から65535の範囲から選択してください。1023以下は各種プロトコルで使用されることがありますので、1024以上を推奨します。

- **FEC Port Number (マルチキャスト)**

エラー訂正機能(FEC)を使用する場合に、FECストリームの宛先ポート番号を設定します。MPEG-2ストリームのポート番号であるMulticast Port Numberとは異なる番号を設定してください。0から65535の範囲から選択します。1023以下は各種プロトコルで使用されることがあり、1024以上を推奨します。

- **Stream Control (ストリーム送信制御)**

Start ボタンで送信を開始します。送信中は Stop ボタンが表示されます。Stop ボタンで送信を停止します。

注) ・ 設定の変更の際は、必ずStopの状態を実施してください。

On Streamingの状態を設定を変更しても無効になります。

- エラー訂正機能(FEC)を使用してDM-ND350と送受信している場合には、DM-ND350を停止させてから本ページをご利用ください。送受信中に本ページの機能を使用すると、DM-ND350は正常に再生を続けることができなくなります。

## 送信中の画面

DM-NE300 *-Web operating service -*  
[\[Basic\]](#) [\[Encoder Control\]](#) [\[Decoder Control\]](#) [\[Status\]](#) [\[Join Decoders\]](#) [\[Logout\]](#) [\[IP Address\]](#) [\[Password\]](#) [\[Advanced\]](#) [\[Initialize\]](#)

---

### < Encoder Control >

FEC is Disabled.

Unicast

Destination IP Address     .  .  .

Destination Port Number   

FEC Port Number   

---

Multicast

Multicast IP Address     .  .  .

Multicast Port Number   

FEC Port Number   

---

**Stream Control**

   Current Status : Stop

## ユニキャストで宛先IPアドレスの機器が存在しない場合の画面

DM-NE300 *-Web operating service -*  
[\[Basic\]](#) [\[Encoder Control\]](#) [\[Decoder Control\]](#) [\[Status\]](#) [\[Join Decoders\]](#) [\[Logout\]](#) [\[IP Address\]](#) [\[Password\]](#) [\[Advanced\]](#) [\[Initialize\]](#)

---

No response from decoder IP Address.



# 13. より詳しい設定のしかた

## 13.1.5 Decoder Control (デコーダ操作)

通常はリモコンでデコーダ DM-ND350/DM-ND300 を操作して本機にアクセスさせますが、このページでは本機からデコーダ DM-ND350/DM-ND300 を操作して再生を開始させることができます。すでに他のエンコーダと送受信中のデコーダでも、この操作により強制的に別のエンコーダへアクセスさせることができます。

またデコーダにアクセスさせるエンコーダは、ブラウザでアクセス中の DM-NE300D に限らず、他の DM-NE300D にアクセスさせることもできます。つまり任意のデコーダとエンコーダの組み合わせでスタート・ストップさせることができます。

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

< Decoder Control >

Target Decoder IP Address

10 . 1 . 16 . 98

Target Encoder IP Address (My Address : 10.0.0.2)

10 . 0 . 0 . 2

Caution  
This procedure will take a little time to check decoder connection.  
Please wait a while after pushing buttons.

Play StopND300 StopND350

### デコーダが応答しない時の画面

DM-NE300 -Web operating service vx.x -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

No response from decoder IP Address.

- Target Decoder IP Address  
スタート・ストップさせたいデコーダ DM-ND300/ND350 の IP アドレスを入力します。
- Target Encoder IP Address  
デコーダにアクセスさせたいエンコーダ DM-NE300D の IP アドレスを入力します。初期状態ではブラウザでアクセスしている DM-NE300D の IP アドレスが自動的にセットされています。
- Play/StopND300/StopND350 ボタン  
IP アドレスで指定したデコーダとエンコーダの組み合わせで、スタート・ストップの操作をします。Play ボタンを押すと、指定されたデコーダへコマンドを送信します。コマンドが正常に受けられれば、デコーダは指定されたエンコーダへアクセスし、エンコーダはストリームの送信を開始します。ストップさせるボタンは、DM-ND300 用と DM-ND350 用に分かれています。DM-ND300 をストップさせる場合には StopND300 ボタンを、DM-ND350 をストップさせる場合には StopND350 ボタンを使用してください。  
(DM-ND350 は StopND300 ボタンを使ってもストップしますが、ビデオ画面にメッセージが残ったままになります。一方 DM-ND300 は StopND350 ボタンではストップしません)  
デコーダがコマンドを受け付けたかどうかは、指定されたエンコーダの Joining Decoders のページで確認することが出来ます。



### 13.1.6 Status (ステータス表示)

このページでは現在の設定内容などステータス情報が表示されます。(約 30 秒に 1 回状態を更新します)

DM-NE300 *-Web operating service-*

[\[Basic\]](#) [\[Encoder Control\]](#) [\[Decoder Control\]](#) [\[Status\]](#) [\[Join Decoders\]](#) [\[Logout\]](#) [\[IP Address\]](#) [\[Password\]](#) [\[Advanced\]](#) [\[Initialize\]](#)

---

( Refresh interval : 30sec )

**< Status >**

<b>Version</b>	: 2.0	<b>Serial Port</b>	
<b>RTSP State</b>	: Init	<b>baudrate</b>	: 9600
		<b>data length</b>	: 8
		<b>parity</b>	: None
<b>IP Address</b>	: 10.0.0.2	<b>stop bit</b>	: 1
<b>Subnet Mask</b>	: 255.0.0.0	<b>flow control</b>	: None
<b>Default Gateway</b>	: No Setting		
		<b>DestinationAddress</b>	: 10.1.36.152
<b>Bitrate</b>	: 2.98	<b>DestinationPort</b>	: 1052
<b>DelayMode</b>	: Normal	<b>FEC DestinationPort</b>	: 1152
<b>AudioMode</b>	: ON		
<b>StartMode</b>	: Nomal		
<b>AutoRecovery Mode</b>	: Disabled		
<b>AutoRecovery Timeout</b>	: 120 (seconds)		
<b>Decoder Request during AutoRecovery</b>	: Disabled		
<b>Uni/Multicast</b>	: Multicast		
<b>MulticastAddress</b>	: 225.0.1.1	<b>Unicast TTL</b>	: 64
<b>MulticastPort</b>	: 3000	<b>Multicast TTL</b>	: 16
<b>FEC MulticastPort</b>	: 3100	<b>Data Protocol</b>	: RTP
<b>MulticastStopMode</b>	: When all decoders stop	<b>MPEG2 TS Packet Number in UDP</b>	: 7
		<b>TOS in IP</b>	: 0x0
		<b>FEC Mode</b>	: ON
		<b>FEC Parameter</b>	: Singel Loss: 33/100, Burst: 1
		<b>SNTP Mode</b>	: OFF
		<b>SNTP Server Address</b>	: No Setting
		<b>SNTP Interval</b>	: 1 hour

### 13.1.7 Joining Decoders (参加デコーダー一覧)

本機のビットストリームをデコードしているデコーダの IP アドレスを表示します。  
(約30秒に1回デコードしているデコーダを更新表示します)

DM-NE300 *-Web operating service-*

[\[Basic\]](#) [\[Encoder Control\]](#) [\[Decoder Control\]](#) [\[Status\]](#) [\[Join Decoders\]](#) [\[Logout\]](#) [\[IP Address\]](#) [\[Password\]](#) [\[Advanced\]](#) [\[Initialize\]](#)

---

( Refresh interval : 30sec )

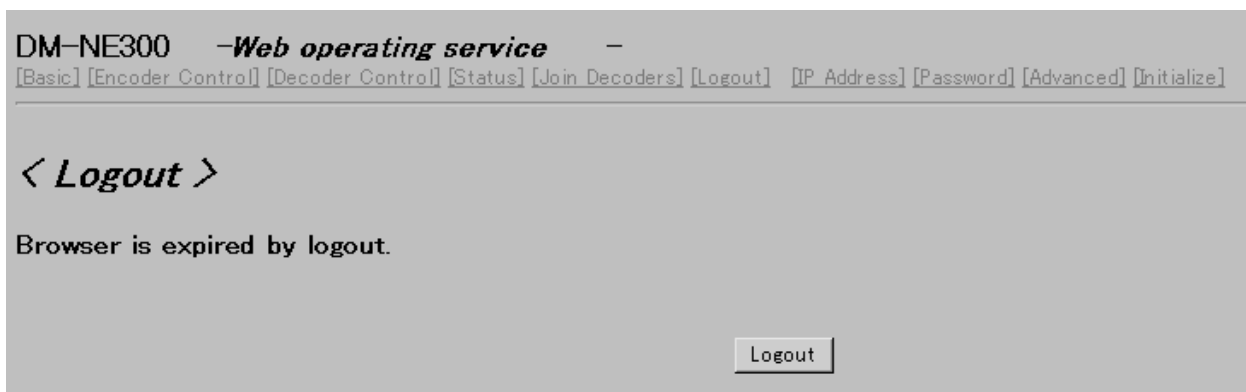
**< Join Decoders >**

<b>Joining Decoder(s)</b>	:	10.1.16.96
		10.1.16.98

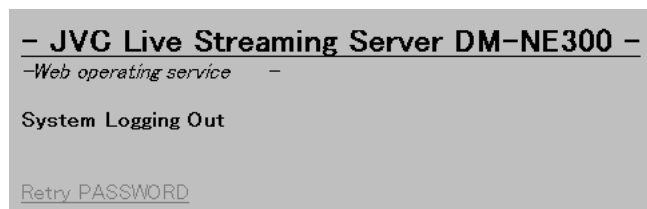
# 13. より詳しい設定のしかた

## 13.1.8 Logout (ログアウトページ)

ブラウザによる本機へのアクセスを終了します。



### ログアウト実行画面



ブラウザによる本機へのアクセスは、複数の人が同時に行えます。すでに他の人がアクセス中であれば、後からアクセスした場合にはその旨が警告されます。同時に複数の人が設定を変更するのは混乱の元となり好ましくありません。もしもログアウトを実行しないでブラウザを閉じると、タイムアウトまでの間はブラウザによるアクセスが継続していると本機は判断し、後からアクセスした人に警告を表示します。ブラウザによるアクセスを終了する際にログアウトを実行すれば、アクセスが終了したことを本機へ即座に伝えることができます。使用後は、必ずログアウトを実行してください。

### 13.1.9 IP Address (ネットワークアドレスの設定)

このページに表示されるパラメータを変更する場合には、DM-NE300Dの再起動が必要になります。パラメータ変更後にEnter&Rebootボタンをクリックすると確認画面が出ます。確認画面でEnter&RebootボタンをクリックするとパラメータがDM-NE300Dへ送信され、再起動されます。

最終画面の後、再起動には約30秒かかります。さらに設定を行う場合には必要に応じてパソコンのネットワーク設定を変更し、ブラウザにエンコーダのIPアドレスを入力して再接続してください。

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

< IP Address >

IP Address    10 . 0 . 0 . 1

Subnet Mask    255 . 0 . 0 . 0

Default Gateway    . . . .

DM-NE300 is rebooted to validate new parameters.

Enter & Reboot

#### 確認画面

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

< IP Address Setting Status >

IP Address    : 10.0.0.1

Subnet Mask    : 255.0.0.0

Default Gateway : No Setting

Are you sure ?

Enter & Reboot

#### リブート実行画面

- JVC Live Streaming Server DM-NE300 -  
-Web operating service -  
DM-NE300 is rebooting. Please wait for 1 minutes and access again.

#### ・IP Address(自身のIPアドレス)

DM-NE300DのIPアドレスを変更するのに使用します。4個の10進整数で入力します。自身のIPアドレスを空欄にすることはできません。

#### ・Subnet mask(サブネットマスク)

サブネットマスクも4個の10進整数で入力します。

注):工場出荷時のIPアドレスは10.0.0.1、サブネットマスクは255.0.0.0になっています。

#### ・Default Gateway(デフォルトゲートウェイ)

デフォルトゲートウェイを設定するのに使用します。デフォルトゲートウェイのIPアドレスを4個の10進整数で入力します。デフォルトゲートウェイを設定しない場合には空欄にします。

入力が正しくない場合には再びIP Addressページが表示されるので、正しい値を入力してください。

注):再起動を行うとブラウザの接続が切断されます。ブラウザからの操作を続ける場合には、再度ブラウザで接続してください。IPアドレスを変更した場合には、30秒程待った後で、新しいIPアドレスを指定して再接続してください。

# 13. より詳しい設定のしかた

## 13.1.10 パスワード変更ページ

ここでは先頭ページで入力するパスワードを変更することができます。現在のパスワードと新しいパスワードを入力しEnterボタンをクリックします。再入力画面が表示されるので、再度新しいパスワードを入力してください。パスワードの文字数の上限は14文字です。英数字に設定してください。大文字、小文字を区別します。

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

< Changing Password >

Current Password

New Password  Max 14 characters

Enter

### パスワード再入力画面

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

Please enter new password again.

Max. 14 characters

Enter

### パスワード変更完了画面

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

Password is changed.

### パスワード変更未完了画面

DM-NE300 -Web operating service -  
[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

Password mismatch.

パスワードを変更した場合、忘れないようにご注意ください。パスワードを忘れるとブラウザからアクセスできなくなります。

### 13.1.11 Advanced (高度な設定)

このページでは特殊な条件で使用する場合のパラメータを変更することができます。変更する場合には、値を選択あるいは入力し Enter ボタンを押します。これらのパラメータを変更する場合には、内容をよくご理解の上変更してください。設定によっては、DM-ND350/DM-ND300 で正常に再生することができなくなります。

DM-NE300 *-Web operating service-*

[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

---

< **Advanced** >

**CAUTION:**  
You don't need to change these parameters in almost cases.  
Please read the operation manual carefully before changing them, otherwise you may have some problem.

---

**Unicast TTL**  1 - 254 (Default : 64)

**Multicast TTL**  1 - 254 (Default : 16)

---

**Data Protocol**  RTP  MPEG/UDP (FEC is not available.)

---

**MPEG2 TS Packet Number in UDP**  7 - 128 (7 when FEC is ON.)  
Set over 14 to decode over 8.93Mbps by DM-ND300.  
Set 7 to avoid IP fragmentation.

---

**TOS in IP**  0x0 - 0xff, or 0 - 255

---

**FEC Mode for DM-ND350**  ON  OFF  
Bitrate < 7Mbps and TS Packet Number = 7 when FEC is ON.  
**Parameter**

---

**SNTP Client Mode**  ON  OFF Set Server Address to Enable SNTP Client.

**SNTP Server IP Address**  .  .  .

**Access Interval**  hour

---

#### • Unicast TTL (ユニキャストのTTL)

ユニキャストの場合のTTL (Time to Live) を設定できます。TTLはストリームがルーターを何回通過できるかを示します。工場出荷の値は64です。

通常、工場出荷の設定値を変更する必要はありませんが、ルータを超えられない場合、値を大きくしてください。1から254の値が設定可能です。

#### • Multicast TTL (マルチキャストのTTL)

マルチキャストの場合のTTLを設定できます。マルチキャストパケットをルーター越えさせる場合に、適切な値に設定できます。工場出荷時の値は16です。

通常、工場出荷の設定値を変更する必要はありませんが、ルータを超えられない場合、値を大きくしてください。1から254の値が設定可能です。

#### • Data Protocol (データを格納するプロトコル)

MPEG2データをUDPパケットに格納するプロトコルを選択できます。工場出荷時にはRTPになっています。MPEGのみにすると、RTPヘッダは追加されなくなり、MPEGデータだけがUDPのペイロードに格納されます。DM-ND350/DM-ND300/DM-ND301でデコードする場合には必ずRTPでお使いください。

# 13. より詳しい設定のしかた

## • MPEG2 TS Packet Number (UDP パケットに格納する MPEG-2 TS パケット数)

UDP のペイロードに格納する MPEG-2 TS パケットの数を設定できます。TS パケットの数を大きくするほど送信処理のオーバーヘッドは少なくなり、デコーダでの受信処理も軽減されます。しかし UDP パケットは複数のフラグメントに分割されることとなります。逆に TS パケットの数を小さくすれば送受信処理は重くなりますが、UDP パケットは分割されなくなります。ネットワークの都合でフラグメント化が望ましくない場合には、TS パケットの数を小さくしてください。MPEG-2 TS パケット 1 個のサイズは 188 バイトなので、TS パケットの数を 7 にすると、1 個の UDP パケットが 1 個のイーサネットフレームになりフラグメントは生じなくなります。工場出荷時の値は 64 です。

TS パケット数を小さくした場合には、受信側の負荷が増えるため再生できるビットレートの上限が小さくなります。TS パケット数を 7 にした場合、**DM-ND300** が再生できる上限は 8.93Mbps、**DM-ND350** が再生できる上限は 12.90Mbps になります。(エラー訂正機能(FEC)を使用する場合の上限は 6.95Mbps になります。)

## • TOS in IP (TOS 値の設定)

IP パケットのヘッダにある TOS 値 (DSCP 値) を設定します。設定する範囲は 8 ビットです。ネットワークスイッチで TOS 値に応じた優先処理が可能な場合に利用ください。

## • FEC Mode for DM-ND350 (エラー訂正機能)

エラー訂正機能 (FEC) のオン、オフを選択します。FEC 機能をオンにすると、パケットロスが起こった場合に、ロスしたパケットを受信側で復元することにより映像音声のノイズを防ぎます。**DM-NE300D** および **DM-ND350** の両方で FEC をオンにしてください。**DM-ND300** には FEC の機能がありませんが、**DM-NE300D** の FEC をオンにしても、**DM-ND300** は従来通り **DM-NE300D** のストリームを再生できます。FEC を使用する場合には、送信側から FEC パケットも送信されるため、実際にネットワークを流れるビットレートが増加します。また受信側では FEC 処理のためのバッファリングを行うため遅延時間が増加します。FEC をオンにした場合に使用できるビットレートの上限は、6.95Mbps に制限されます。それより大きなビットレートに設定されていた場合、FEC をオンにした時点で自動的に 6.95Mbps へ変更されます。FEC をオンにしている状態では、ビットレートを 7Mbps 以上に設定できなくなります。フロントパネルから 10Mbps を選択することもできなくなります。

FEC をオンにした場合、TS パケット数は自動的に 7 へ変更されます。FEC をオフに戻しても TS パケット数は 7 のままです。**DM-ND300** で 8.93Mbps を、**DM-ND350** で 12.9Mbps を越えるビットレートを再生する場合は TS パケット数を 64 に戻してください。

データプロトコルが非 RTP (MPEG Only) の場合には、FEC は利用できません。FEC を使用する場合にはデータプロトコルを RTP に設定してください。

## • Parameter (エラー訂正機能のパラメータ)

FEC の強度を選択します。各選択枝の性能を以下に示します。

選択枝	復元可能な単発ロスの最大頻度	復元可能なバーストロスの個数	ビットレートの増加分	ノーマルモード 6Mbps の遅延時間	低遅延モード 6Mbps の遅延時間
Single Loss 9/100, Burst 0	9%	復元できない	10%	0.9 秒	0.8 秒
Single Loss 9/100, Burst 10	9%	10 個	10%	1.1 秒	0.9 秒
Single Loss 20/100, Burst 0	20%	復元できない	25%	1 秒	0.8 秒
Single Loss 20/100, Burst 42	20%	42 個	25%	1.3 秒	1.1 秒
Single Loss 33/100, Burst 0	33%	復元できない	50%	1 秒	0.8 秒
Single Loss 33/100, Burst 127	33%	127 個	50%	1.4 秒	1.2 秒

選択枝にはトレードオフがあり、エラー訂正性能が大きいほどビットレートや遅延時間の増加分も大きくなります。用途や回線帯域に応じて選択してください。例えば回線の帯域に余裕があまり無ければ、ビットレートの増加分が小さいものを選択します。たとえ遅延時間が増えようとパケットロスによる悪影響を除きたい場合には、訂正能力の高いものを選択します。



- **SNTP Client Mode (SNTPクライアント機能)**

SNTPクライアント機能は、定期的にSNTPサーバーから時刻情報を取得し、DM-NE300D内の時計を時刻合わせする機能です。時計はエラーログに用いられます。

本機能をオンにするためには、SNTPサーバーアドレスを設定しておく必要があります。SNTPサーバーのアドレスが未設定の場合、本機能をオンにすることはできません。

- **SNTP Server IP Address (SNTPサーバーのIPアドレス)**

DM-NE300Dと同一セグメントに設置するSNTPサーバーのIPアドレスを設定します。

- **Access Interval (SNTPサーバーへアクセスする時間間隔)**

SNTPサーバーへアクセスする時間間隔を設定します。単位は時間 (hour) です。

### 13.1.12 Initialize (工場出荷状態へのリセット)

- 工場出荷状態へのリセット

全てのパラメータを工場出荷状態に戻すことができます。再起動後のパラメータはこのページに表示されている値になります。IPアドレスは 10.0.0.1 になります。

注) : この操作では、DM-NE300Dを工場出荷設定に戻しますので、この操作の後に設定を続ける場合には必要に応じてパソコンのネットワーク設定を変更してください。

#### 確認画面

DM-NE300D -Web operating service -

[Basic] [Encoder Control] [Decoder Control] [Status] [Join Decoders] [Logout] [IP Address] [Password] [Advanced] [Initialize]

< Initialize >

Reset All Parameters to following values.

IP Address	: 10.0.0.1	Serial Port	
Subnet Mask	: 255.0.0.0	baudrate	: 9600
Default Gateway	: No Setting	data length	: 8
		parity	: None
Bitrate	: 2.98 Mbps	stop bit	: 1
DelayMode	: OFF	flow control	: None
AudioMode	: ON		
StartMode	: Normal		
AutoRecovery Mode	: Disabled		
AutoRecovery Time	: 120 seconds		
Decoder Request during AutoRecovery	: Disabled		
Uni/Multicast	: Unicast		
MulticastAddress	: 225.0.1.1		
MulticastPort	: 3000		
FEC MulticastPort	: 3100		
MulticastStopMode	: When all decoders stop		
DestinationAddress	: 10.0.0.100		
DestinationPort	: 1052		
FEC DestinationPort	: 1152		
TTL	: Unicast: 64, Multicast: 16		
Data Protocol	: RTP		
TS Packet Number	: 64		
TOS in IP	: 0		
FEC Mode	: OFF		
FEC Parameter	: Single Loss 20/100, Burst 32		
SNTP Mode	: OFF		
SNTP Server Address	: No setting		
SNTP Interval	: 1 hour		

# 13. より詳しい設定のしかた

## 13.2 パソコンのターミナルソフトによる設定

注): パソコンの設定についてはパソコンの取扱説明書をよくお読みください。

### 13.2.1. パソコンとの接続

#### (1) 接続

DM-NE300Dのメンテナンス用D-sub9ピン端子とパソコンのCOM端子とを接続します。ケーブルにはクロスケーブルを用います。メンテナンス用端子はメスになっています。

注): メンテナンス用RS232Cを接続したままパソコンを起動すると、OSによってはDM-NE300Dを再起動してしまいます。パソコンが完全に立ち上がるまでRS232Cを接続しないでください。

#### (2) ターミナルソフトの起動

パソコンでターミナルソフトを起動します。ウィンドウズマシンであれば、例えばスタート→プログラム→アクセサリ→ハイパーターミナルと選びます。ターミナルソフトは、

ボーレート : 19200 bps  
データ長 : 8ビット  
パリティ : なし  
ストップビット : 1ビット  
フロー制御 : なし

と設定してください。

#### (3) DM-NE300Dの起動画面

DM-NE300Dを起動している場合にはEnterキーを押すとプロンプトがターミナルに表示されます。この状態でコマンドを入力できます。

注): テルネットで接続中にはターミナルソフトで接続できません。



### 13.2.2. コマンド一覧

#### (1) 再起動の不要な設定コマンド

##### [ビットレート変更]

コマンド : **ChangeBitrate**

引数 : Mbps単位のビットレート。必ず小数点以下1位以下まで設定してください。例えば 6Mbpsに設定したい場合であれば次の例のようにしてください。

例 : ChangeBitrate 6.0

動作 : ビットレートを変更します。ビットレートは指定された数値を越えない範囲で可能な最大のレートが選択されます。

#### [遅延モードの変更]

コマンド : **ChangeDelayMode**  
引数 : 0ならノーマルモード(高画質モード)、1なら低遅延モードになります。  
例 : ChangeDelayMode 1  
動作 : 遅延モードを変更します。遅延時間を短くしたい場合には低遅延モードを、画質を優先したい場合にはノーマルモードを選択します。

#### [音声モードの変更]

コマンド : **ChangeAudioMode**  
引数 : 0なら音声無し、1なら音声有り。  
例 : ChangeAudioMode 1  
動作 : 音声の有無を選択します。音声無しにすれば、より多くのビットレートがビデオに割り振られ画質が向上します。

#### [データのプロトコル変更]

コマンド : **ChangeDataProtocol**  
引数 : 0であればRTPに、2であればMPEG onlyになります。(1は特殊な実験用となっています。指定しないでください。)  
例 : ChangeDataProtocol 2  
動作 : UDPに格納するMPEG2データのプロトコルを変更します。

#### [自動開始モードの変更]

コマンド : **ChangeAutoStart**  
引数 : 0ならオフ、1ならオン。  
例 : ChangeAutoStart 0  
動作 : 自動開始モードを変更します。自動開始モードをオンにすると、**DM-NE300D**の起動後に自動的に送信を開始します。ユニキャストモードの場合には、ChangeDestinationAddressで設定した宛先アドレスへ送信します。マルチキャストモードの場合には、ChangeMulticastAddressで設定した宛先アドレスへ送信します。

#### [ユニキャスト/マルチキャストの選択]

コマンド : **ChangeMulticastMode**  
引数 : 0ならユニキャスト、1ならマルチキャスト。  
例 : ChangeMulticast Mode 0  
動作 : ユニキャストとマルチキャストを切り換えます。

#### [マルチキャストアドレスの変更]

コマンド : **ChangeMulticastAddress**  
引数 : ダブルクォーテーションマークで囲んだIPアドレス。IPアドレスはピリオドで区切った10進整数で打ち込んでください。アドレスは 224.0.0.0~239.255.255.255 の範囲から選択してください。  
例 : ChangeMulticastAddress "225.0.1.1"  
動作 : マルチキャスト送信の宛先アドレスを変更します。

#### [宛先ポート番号変更]

コマンド : **ChangeMulticastPort**  
引数 : ポート番号(0~65535)  
例 : ChangeMulticastPort 10000  
動作 : マルチキャスト送信の宛先ポート番号を変更します。

#### [マルチキャストのTTL変更]

コマンド : **ChangeMulticastTTL**  
引数 : TTL  
例 : **ChangeMulticastTTL 64**  
動作 : マルチキャストでのTTL(Time to Live)を変更します。TLLはストリームがルーターを何回通過できるかを示します。

# 13. より詳しい設定のしかた

## [マルチキャスト時のストップ方法の選択]

コマンド : **ChangeMulticastStopMode**  
引数 : 0:全てのデコーダがStopしたら停止、1:マスターデコーダがStopしたら停止、2:マニュアルで停止  
例 : ChangeMulticastStopMode 0  
動作 : マルチキャスト送信を停止させる方法を指定します。

## [シリアルポートのボーレート変更]

コマンド : **ChangeSerialPortBaudrate**  
引数 : ボーレート。以下の中から選択してください。  
110, 134, 150, 200, 300, 600, 1200, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 31250, 38400  
例 : ChangeSerialPortBaudrate 9600  
動作 : シリアルポートのボーレートを変更します。

## [シリアルポートのデータ長変更]

コマンド : **ChangeSerialPortDataLength**  
引数 : データ長(7または8)  
例 : ChangeSerialPortDataLength 8  
動作 : シリアルポートのデータ長を変更します。

## [シリアルポートのパリティ変更]

コマンド : **ChangeSerialPortParity**  
引数 : 0ならパリティなし、1なら odd、2なら even  
例 : ChangeSerialPortParity 1  
動作 : シリアルポートのパリティを変更します。

## [シリアルポートのストップビット変更]

コマンド : **ChangeSerialPortStopBit**  
引数 : ストップビット(1または2)  
例 : ChangeSerialPortStopBit 1  
動作 : シリアルポートのストップビットを変更します。

## [シリアルポートのフロー制御変更]

コマンド : **ChangeSerialPortFlowControl**  
引数 : 0ならなし、1なら Xon/Xoff、2なら Hardware  
例 : ChangeSerialPortFlowControl 1  
動作 : シリアルポートのフロー制御を変更します。フロー制御を行うとシリアルポートでのデータ欠落等を防げますが、データの転送レートは低下します。フロー制御を行っている状態でネットワークからあまりに多くのデータをシリアルポートへパススルーしようとする、結果としてデータが失われることがあります。

## [宛先IPアドレス]

コマンド : **ChangeDestinationAddress**  
引数 : ダブルクォーテーションマークで囲んだIPアドレス。IPアドレスはピリオドで区切った10進整数で打ち込んでください。  
例 : ChangeDestinationAddress "10.0.0.100"  
動作 : 送信の宛先IPアドレスを変更します。**DM-NE300DD**からマニュアルで送信する場合の宛先アドレスになります。デコーダ**DM-ND300/DM-ND350/DM-ND301**と送受信する場合にはRTSPプロトコルにより宛先IPアドレスがデコーダに合わせて変更されます。

## [宛先ポート番号変更]

コマンド : **ChangeDestinationPort**  
引数 : ポート番号(0~65535)

例 : ChangeDestinationPort 10000  
 動作 : 送信の宛先ポート番号を変更します。**DM-NE300D**からマニュアルで送信する場合の宛先ポート番号になります。デコーダ**DM-ND300/DM-ND350/DM-ND301**と送受信する場合にはRTSPプロトコルにより宛先ポート番号がデコーダに合わせて変更されます。

#### [ユニキャストのTTL変更]

コマンド : **ChangeUnicastTTL**  
 引数 : TTL  
 例 : ChangeUnicastTTL 64  
 動作 : ユニキャストでのTTL (Time to Live)を変更します。TTLはストリームがルーターを何回通過できるかを示します。

#### [エラー訂正(FEC)のオンオフ]

コマンド : **ChangeFECMode**  
 引数 : 0ならFECオフ、1ならFECオン  
 例 : ChangeFECMode 1  
 動作 : エラー訂正機能(FEC)をオン・オフします。FECを利用できるのは、**DM-ND350**と組み合わせた場合です。FECを使用する場合には、**DM-NE300D**だけではなく、**DM-ND350**のFEC機能もオンにしてください。

**DM-NE300D**のFEC機能をオンに設定すると、自動的にTSパケット数は7に設定されます。

FEC機能を使う場合のビットレートの上限は6.95Mbpsです。ビットレートが7Mbps以上に設定されていた場合、FECをオンに設定すると、ビットレートは自動的に6.95Mbpsへ変更されます。またフロントパネルの「10Mbps」スイッチは選択できなくなります。

FEC機能はデータプロトコルがRTPの場合に利用できます。データプロトコルがMPEG Onlyの場合にはFEC機能をオンにすることができません。

#### [エラー訂正(FEC)の強度選択]

コマンド : **ChangeFECParameter**  
 引数 : 最初の引数に単発ロスの頻度(パーセント)、2番目の引数にバーストロスの個数を入れます。  
 例 : ChangeFECParameter 33, 1  
 動作 : エラー訂正機能(FEC)の強度を選択します。以下の組み合わせが設定可能です。

ロス頻度、バースト数の組み合わせ	復元可能な単発ロスの最大頻度	復元可能なバーストロスの最大数	ビットレートの増加分	ノーマルモード 6Mbps の遅延時間	低遅延モード 6Mbps の遅延時間	WEBブラウザから選択可能
9, 1	9%	1個 (単発のみ)	10%	0.9秒	0.8秒	○
9, 10	9%	10個	10%	1.1秒	0.9秒	○
16, 1	16%	1個 (単発のみ)	20%	1秒	0.8秒	
16, 25	16%	25個	20%	1.2秒	1秒	
20, 1	20%	1個 (単発のみ)	25%	1秒	0.8秒	○
20, 42	20%	42個	25%	1.3秒	1.1秒	○
25, 1	25%	1個 (単発のみ)	33%	1秒	0.8秒	
25, 63	25%	63個	33%	1.3秒	1.1秒	
33, 1	33%	1個 (単発のみ)	50%	1秒	0.8秒	○
33, 127	33%	127個	50%	1.4秒	1.2秒	○

WEBブラウザから選択できない組み合わせを本コマンドで選択している場合、WEBブラウザの選択欄には User Setting と表示されます。

選択肢にはトレードオフがあり、エラー訂正性能が大きいほどビットレートや遅延時間の増加分も大きくなります。用途や回線帯域に応じて選択してください。例えば回線の帯域に余裕があまり無ければ、ビットレートの増加分が小さいものを選択します。たとえ遅延時間が増えようとパケットロスによる悪影響を除きたい場合には、訂正能力の高いものを選択します。



# 13. より詳しい設定のしかた

## [マルチキャストモードでのFECストリームの宛先ポート番号変更]

コマンド : **ChangeFECMulticastPort**  
引数 : ポート番号(0~65535)  
例 : ChangeFECMulticastPort 3102  
動作 : マルチキャストモードにおいて、エラー訂正(F E C)のストリームの宛先ポート番号を設定します。MPEG-2ストリームのポート番号とは異なる値を設定します。

## [ユニキャストモードでのFECストリームの宛先ポート番号変更]

コマンド : **ChangeFECDestinationPort**  
引数 : ポート番号(0~65535)  
例 : ChangeFECDestinationPort 1160  
動作 : ユニキャストモードにおいて、エラー訂正(F E C)のストリームの宛先ポート番号を変更します。MPEG-2ストリームのポート番号とは異なる値を設定します。本コマンドで設定する宛先ポート番号は、**DM-NE300D**からマニュアルで送信する場合の宛先ポート番号になります。デコーダ**DM-ND350**と送受信する場合には、RTSPプロトコルにより宛先ポート番号が**DM-ND350**から指定され、本コマンドで設定した値は使用されません。

## [停電復帰機能のオン・オフ]

コマンド : **ChangeAutoRecovery**  
引数 : 0なら停電復帰オフ、1なら停電復帰オン  
例 : ChangeAutoRecovery 1  
動作 : 停電復帰機能をオン・オフします。停電復帰機能はユニキャストモードの場合に利用でき、送受信中の**DM-NE300D/DM-ND300/DM-ND350**が停電・通電した場合に送受信を再開します。マルチキャストモードの場合には停電復帰機能は働きません。

## [停電復帰機能のタイムアウト時間を変更]

コマンド : **ChangeAutoRecoveryTimeout**  
引数 : 秒単位のタイムアウト時間  
例 : ChangeAutoRecoveryTimeout 240  
動作 : 停電復帰機能のタイムアウト時間を変更します。送受信中の**DM-NE300D/DM-ND300/DM-ND350**が停電・通電した場合、タイムアウトになるまでに再開をリトライします。設定できる最大時間は、2147000000秒(約68年)です。

## [停電復帰中の割り込み許可を変更]

コマンド : **ChangeAutoRecoveryInterrupt**  
引数 : 0なら割り込みを拒否、1なら割り込みを許可  
例 : ChangeAutoRecoveryInterrupt 1  
動作 : 停電復帰中に他のデコーダからRTSP SETUPリクエストが来た場合、停電復帰を中断して受け入れるかどうかを変更します。

## [RTSPセッションを強制終了]

コマンド : **TerminateRTSPSession**  
引数 : なし  
動作 : **DM-NE300D**が保持しているRTSPセッションを強制終了します。例えば**DM-NE300D**とデコーダが送受信中にデコーダ側でトラブルがあると、デコーダからRTSPセッションを終了できないことがあります。本コマンドを使えば**DM-NE300D**のRTSPセッションを強制終了することができます。**DM-NE300D**は他のデコーダからのRTSPリクエストを受け付けるようになります。

## [SNTPクライアント機能のオン・オフ]

コマンド : **ChangeSNTPMode**  
引数 : 0ならオフ、1ならオン  
例 : ChangeSNTPMode 1



動作 : S N T P クライアント機能をオン・オフします。S N T P クライアント機能をオンにすると、**DM-NE300D**は定期的にSNTPサーバーから時刻情報を取得し、自身の時計を修正します。SNTPクライアント機能をオンするには、あらかじめSNTPサーバーのアドレスを設定してください。

#### [SNTPサーバーのIPアドレス変更]

コマンド : **ChangeSNTPServer**

引数 : SNTPサーバーのIPアドレス。IPアドレスはピリオドで区切った10進整数で表記し、ダブルクォーテーションマークで囲んでください。

例 : ChangeSNTPServer "10.0.0.250"

動作 : **DM-NE300D**が時刻情報を取得するSNTPサーバーのIPアドレスを設定します。SNTPサーバーは、**DM-NE300D**と同一セグメントに設置してください。

#### [SNTPサーバーへアクセスする時間間隔を変更]

コマンド : **ChangeSNTPInterval**

引数 : SNTPサーバーへアクセスする時間間隔。単位は時間(hour)。

例 : ChangeSNTPInterval 2

動作 : SNTPクライアント機能をオンにしている場合に、SNTPサーバーへアクセスする時間間隔を設定します。

#### [テルネットのパスワード変更]

コマンド : **ChangeTelnetPassword**

引数 : ダブルクォーテーションマークで囲んだ新ユーザー名、ダブルクォーテーションマークで囲んだ新パスワード。

例 : ChangeTelnetPassword "NewUserName", "NewPw"

動作 : テルネットでログインする場合のユーザー名とパスワードを変更します。変更した結果を忘れないようご注意ください。ユーザー名とパスワードを忘れるとテルネットで接続できなくなります。

#### [HTTPサーバーのパスワード変更]

コマンド : **ChangeHTTPPassword**

引数 : ダブルクォーテーションマークで囲んだ新パスワード

例 : ChangeHTTPPassword "NewPw"

動作 : ブラウザでアクセスする場合のパスワードを変更します。変更した結果を忘れないようご注意ください。パスワードを忘れるとブラウザから接続できなくなります。

#### [直前のコマンドをアンドゥ]

コマンド : **Undo**

引数 : なし。

動作 : 最後に行った設定コマンドをUndoします。

#### [アンドゥしたコマンドをリドゥ]

コマンド : **Redo**

引数 : なし。

動作 : 最後に行ったコマンドがUndoであった場合に、UndoしたコマンドをRedoします。

#### (2)再起動の必要な設定コマンド

以下のコマンドで変更したパラメータを有効にするためには**DM-NE300D**の再起動が必要です。電源のオンオフ、または再起動のコマンドで再起動してください。再起動のコマンドは、**reboot** です。

#### [自身のIPアドレス&サブネットマスク変更]

コマンド : **ChangeIPAddress**

引数 : 最初の引数にダブルクォーテーションマークで囲んだIPアドレス、2番目の引数にダブルクォーテーションマークで囲んだサブネットマスクを入れます。IPアドレスとサブネットマスクは、ピリオドで区切った10進整数で打ち込んでください。

# 13. より詳しい設定のしかた

例 : ChangeIPAddress "192.168.4.6", "255.255.255.0"  
動作 : 自身のIPアドレスとサブネットマスクを変更します。このコマンドを実行後に再起動させる場合には reboot と打ち込んでください。再起動には約30秒かかります。

## [デフォルトゲートウェイ変更]

コマンド : **ChangeDefaultGateway**  
引数 : ダブルクォーテーションマークで囲んだIPアドレス。IPアドレスはピリオドで区切った10進整数で打ち込んでください。  
例 : ChangeDefaultGateway "10.0.0.254"  
動作 : デフォルトゲートウェイを変更します。デフォルトゲートウェイの設定を削除する場合には、ダブルクォーテーションマークの中に何も入れずに **ChangeDefaultGateway ""** と入力してください。このコマンドを実行後に再起動させる場合には reboot と打ち込んでください。再起動には約30秒かかります。

## [ホストPCのIPアドレス変更]

コマンド : **ChangeHostIPAddress**  
引数 : ダブルクォーテーションマークで囲んだIPアドレス。IPアドレスはピリオドで区切った10進整数で打ち込んでください。  
例 : ChangeHostIPAddress "192.168.4.56"  
動作 : ホストPCのIPアドレスの設定を変更します。デフォルトゲートウェイの設定を削除する場合には、ダブルクォーテーションマークの中に何も入れずに **ChangeHostIPAddress ""** と入力してください。このコマンドを実行後に再起動させる場合には reboot と打ち込んでください。再起動には約30秒かかります。

## [工場出荷状態に戻す]

コマンド : **InitParameters**  
引数 : なし。  
動作 : 全てのパラメータを工場出荷状態にリセットします。このコマンドを実行後に再起動させる場合には reboot と打ち込んでください。再起動には約30秒かかります。リセット後のDM-NE300DのIPアドレスは 10.0.0.1 になります。

## (3)情報表示コマンド

### [ステータス表示]

コマンド : **Status**  
引数 : なし。  
動作 : ステータス情報を表示します。

### [デコーダ一覧表示]

コマンド : **JoiningMember**  
引数 : なし。  
動作 : 受信中のデコーダのIPアドレス一覧を表示します。

### [FEC識別付きデコーダ一覧表示]

コマンド : **PrintClientList**  
引数 : なし。  
動作 : 受信中のデコーダのIPアドレス一覧を表示します。JoiningMemberが表示する情報に加え、セッション番号、FEC利用の有無も表示します。

#### [コマンド一覧表示]

コマンド : **Help**  
引数 : なし。  
動作 : コマンド一覧をアルファベット順で表示します。

#### (4)ストリーム制御コマンド

##### [送信開始]

コマンド : **Play**  
引数 : なし  
動作 : **DM-NE300D**からマニュアルでのストリーム送信を開始します。ユニキャストモードに設定されている場合には、ChangeDestinationAddress で指定した宛先アドレスへ送信します。マルチキャストモードに設定されている場合には、ChangeMulticastAddress で指定したマルチキャストアドレスへ送信します。  
ユニキャストとマルチキャストの切り替えにはChangeMulticastコマンドを使用します。

##### [送信停止]

コマンド : **Stop**  
引数 : なし  
動作 : ストリーム送信を停止します。

### 13.3 パソコンのテルネットによる設定

#### 13.3.1. パソコンとの接続

##### (1)接続

**DM-NE300D**とパソコンをネットワークで接続します。パソコンと**DM-NE300D**がネットワークで接続されているかどうかはping コマンドを実行することでチェックできます。例えば**DM-NE300D**のIPアドレスが10.0.0.1であれば、パソコンでコマンドプロンプトを起動し

**ping 10.0.0.1**

と打ち込みます。正しく接続されている場合には、**DM-NE300D**からの次のようなレスポンスが表示されます。

**Reply from 10.0.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64**

接続されていない場合には次のようにタイムアウトが表示されます。

**Request timed out.**

注): 工場出荷時の**DM-NE300D**のIPアドレスは10.0.0.1になっています。

##### (2)テルネットの起動

パソコンでテルネットを起動します。ウィンドウズマシンであれば、コマンドプロンプトで打ち込みます。例えば**DM-NE300D**のIPアドレスが10.0.0.1に設定されている場合、

**telnet 10.0.0.1**

と打ち込みます。ユーザー名とパスワードを要求されますので、それぞれ入力してください。**DM-NE300D**の工場出荷時には、

**ユーザー名: user\_name**

**パスワード: password**

に設定されています。

注): 安全のためユーザー名およびパスワードを直ちに変更することを推奨します。

変更するコマンドは既述のChangeTelnetPasswordです。

テルネットの表示行が不足している場合は、テルネットソフトの設定でバッファサイズを増やしてください。

注): 1度に接続できるテルネットの数は1つだけです。すでに他のテルネットで接続されている場合には、接続できません。

# 13. より詳しい設定のしかた

## 13.3.2. コマンド

コマンドはターミナルソフトと共通です。

注): テルネットから再起動した場合、テルネットの接続が切断されます。

テルネットからの操作を続ける場合には、再度テルネットで接続してください。

## 13.3.3. テルネットの終了

**sp logout** と打ち込んでください。一般的なテルネットでは **logout** と打ち込むことでテルネットを終了させますが、本機では **sp logout** と打ち込んでください。 **sp** と **logout** の間にはスペースを入れます。

ネットワークやPCのトラブルによりテルネットが正しく終了できなかった場合には、**DM-NE300D** はテルネットの接続をそのまま維持します。そのためテルネットから再接続できなくなります。この状態になっても、**DM-NE300D** はタイムアウトによりテルネットを切断するので、10分後には再接続が可能になります。またブラウザから **DM-NE300D** を再起動することでもテルネットの接続を解消できます。

## 14. トラブルシューティング

### ・ IPアドレスがわからなくなった場合

**DM-NE300D** に設定したIPアドレスがわからなくなった場合、以下の方法で調べることができます。

#### (A) 起動時に送信するARPパケットを調べる

**DM-NE300D** は起動時に自身のIPアドレスへARPパケットを送信します。これをPCのネットワークモニターソフトでキャプチャーして調べれば、設定されているIPアドレスがわかります。

#### (B) ターミナルソフトからStatusコマンド

13.2.1に従ってPCとシリアルで接続し、ターミナルソフトからStatusコマンドを実行すれば、IPアドレスが表示されます。

### お客様ご相談センター

フリーダイヤル



0120-2828-17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は

電話 (03)5684-9311 [代表]

FAX (03)5684-9317

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル

## 日本ビクター株式会社

プロシステムカンパニー

〒192-8620 東京都八王子市石川町2969-2

電話 (0426) 60-7292